

有限会社からくり企画 代表取締役 岩原宏志さんに聞く

伝統産業を守りつつもファンも増やす 箱根細工・からくり企画の職人の育て方

日本には、経済産業大臣が指定した「伝統的工芸品」が243品目あります（2024年10月17日時点）。ところが、今、職人の数は右肩下がりに減少。そのような厳しい中で、順調に売上を伸ばし、新卒を採用している会社があります。伝統的工芸品の「箱根寄木細工」の指定産地である箱根・小田原地域で、多くの職人を雇いまとめている有限会社からくり企画の代表取締役の岩原宏志さんにその秘訣を聞きました。



「からくり企画」で製作されている「からくり箱」は、海外ではメカニカルパズルの一種として分類されているようで、実は、開きそうで開かない「秘密箱」にヒントを得たものです。「秘密箱」の仕掛けは箱の面を順番通りにスライドさせることですが、「秘密箱」をベースに多様な表現を求めて発展させたのが「からくり箱」です。今年の7月末～8月頭にかけて銀座三越で「からくり箱」の展示会が開かれました。展示されたのは、新作に加えて「コーヒーカップ」「タマゴ」などの人気作。これらは、ぱっと見ただけでは「からくり」があるとは思えない、木製のインテリアか高級なおもちゃのような作品です。

「毎回このようなイベントでは実際に遊ぶことができる作品を用意し、お客様に手で触れて楽しんでもらうようにしています。みなさん、ワクワクドキドキ、楽しんでくださいます」と岩原さんは話します。



銀座三越で展示販売された「コーヒーカップ」。解き方のヒントは「甘党の人はどうやって飲む?」

「秘密箱」から進化した「からくり箱」

江戸時代になって東海道が整備され、箱根は湯治場として有名になりました。また、箱根のお土産品として、広く知られるようになったのが木工芸品の箱根細工でした。そのような中で、約130年前に箱根湯本の指物職人・大川隆次郎氏が「秘密箱」を考案したといわれています。箱根細工は、江戸末期に日本を訪れたドイツ人医師のシーボルトやオランダ人の日本研究者フィッセルなどの外国人の目に留まり、大正時代にかけて寄木細工、組木細工、秘

密箱など多くの工芸品が輸出されたそうです。

現在、「からくり箱」は「KARAKURI BOX」として、欧米のコレクターに大人気。新製品を発売するとすぐに売り切れてしまう状態がここ数年続いています。人にもよりますが、完成までには構想と試作で2か月、さらに製作に2か月かかります。

「もっと作ってほしいというお客様からの声はたくさんいただきますが、職人が2か月作り続けても一人50個がやっとで、製作が追いつかないんです」と岩原さん。取材時も、「今週も海外への商品の発送が200件もあり、それに加えて老舗百貨店“銀座三越”での展示会の準備、夏休みの子どものための工作教室の準備があって、大忙しです。いつもに増してみんなの働きに無駄がない」と、繁忙な様子が見て取れました。



100年以上前に箱根湯本の指物師の大川さんが考案した「秘密箱」



代表取締役の岩原宏志さん

かつての徒弟制度は影もない「ホワイト」な職場

現在、からくり企画は、一般的に高齢化している業界の中でも社員年齢が若いのが特徴です。就業時間は8時半～17時半で、残業もほとんどなく、時間内にきっちり作業を終わらせるように効率的に働いているそうです。

「個人の作品の開発が進むかは本人次第のところはありますが、終業時刻は17時半としています。以前は18時終業だったのですが、何人かの若手がもう少し早く帰りたいというので、17時半にしました。時間で区切れないところがある職種ではありますが、ホワイトな職場を目指しています」と岩原さん。

昔であれば、職人の世界には徒弟制度があり、14、15歳という幼いうちに親元を離れて親方のところに弟子入りし、無報酬で朝から晩まで働いて、20歳で一人前になるというやり方でした。それも、「技は見て覚えろ」と、丁寧に教育してはもらえません。箱根のろくろ職人、指物職人などはまさにそういう世界でしたが、その中でも伝統工芸士といった優れた技を持つ人を輩出してきました。

しかし、時代は変化しました。職人のなり手も減っています。今の時代にあった職人の在り方、育て方を、岩原さんと前社長の亀井明夫さんは考えたのだといいます。岩原さんは、「朝からずっと若手のそばにいて仕事を伝授しています。質問にはすぐ答えます。早く仕事を覚えて戦力になってもらいたい」といいます。

職人がアーティストのように活躍できる職場

就職説明会でも入社の際にも岩原さんが共通して伝えているのが、求める職人像です。



左：昔の道具も大切に保管してある
右：作業場の様子。それぞれが集中して作業する
“ホワイトな職場”

腕は入社した後にいくらでも磨けますが、新しいことをやってみたい、表現してみたいと思える人に来てもらいたいといいます。

「うちが求めているのは常に新しい作品に挑戦する職人です。最初は無理でも、2年から3年後にはほとんどの職人が自分の作品を発表するようになっていきます。新しい作品を作れる機会は年に3回ほどでしょうか」

もちろん就職をして最初からオリジナル作品を作ることはできません。先輩の仕事の一部を任されたり、先輩たちが過去に考案したもので構造が比較的簡単なものの製作に挑戦したりすることで、仕事を覚えていきます。すべて一人で作れるようになるまでに3年から5年にかかるそうですが、その間、会社は人材育成に投資をしながら、若手が作った過去の作品を「再販」という形で売って収益を立てます。

社員は会社員として固定給をもらいながら、自分のオリジナル作品を発売し、その作品を自分の名前で世に出すことができるのです。そういうところに魅力を感じた若者が、全国から集まってきてくれると話します。

「若手であってもアーティストのように、個人名で作品を発表できるというのが、若者を惹きつけるのだと思います。ファンが獲得でき、それがモチベーションにもつながるでしょう」

また、からくり企画では、作品が売れたらその分に応じて給料がアップする仕組みです。やりがいと、働き方、収入のバランスがよく取れていて、こういうやり方で日本の職人を守り、伝統産業を継承して、より進化させていく方法があったのかと気付かれます。



様々なからくり箱が職人たちの手で生み出されている

技を高め合い、価値は自らが生み出す

このようなからくり企画らしい人材育成は、前社長の亀井さんがやりたかったことだといいます。

亀井さんは学生時代に組木細工に魅せられ、1972年に大学を中退して小田原市内にある組木工房に入門。その後、独立。気になっていた秘密箱を元に、オリジナルの秘密箱を作りたいと思うように。1983年には銀座松屋にて「からくり箱」の個展を開催するくらいまで有名になり、多くのファンを持つ存在となりました。ところが、職人としてとんとん拍子に進んだかに見える亀井さんですら、下積み時代は「このままでは職人は生き残れない。どうしたらいいのか」と考えていたそうです。

というのも、職人は卓越した技術で一定のクオリティの製品を作り続けるものの、新商品のアイデアを持ってくるのは問屋でした。問屋の言うものを作っていたら商品は買い取ってもらえますが、値段設定は問屋側です。中国産の低価格な商品が箱根で土産物として出回るようになると、「1円でも安くしろ」とどんどん卸価格を下げていき、職人がどんなにいいものを作っても安いものの方が喜ばれました。

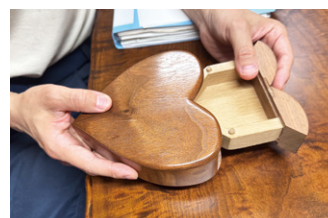
「職人が生き残る道は、商品を量産して安価なものを作るじゃない。質を上げて他にないものを作っていくのだ。組木の技術を使って、これまでにないパズルのような新しい仕掛けの秘密箱を作れないだろうか。そして、できたものは自分で売ろう」

そう思った亀井さんは、会社を飛び出しオリジナル作品作りに突き進みました。「からくり箱」が出来上がり、テレビに取り上げられて知名度が上がると、1999年に岩原さんが亀井さんに弟子入りします。同年に、亀井さんは岩原さんらと「からくり創作研究会」という若手から70代のベテランまでを集めた職人集団を作ります。その目的は、若手育成と技の高め合いでした。研究会では、質の良い木工品を作って、「地域における産業としてさらに発展していく」ことを目標に、「からくりの発想も技もみんなで考え共有する」というルールを作りました。本来、自分の持っている技は隠したがるのが職人ですが、それをメンバーにオープンにしていくことにしたのです。

「自分一人ではアイデアで終わっていたものが、他の職人の“私だったらこうするな”、“あの手法が使えるじゃないか”と知恵の出し合いによって、具現化できるようになりました」

こうして多くの作品が生み出されるようになり、研究会のメンバーたちが作った作品をまとめて宣伝・販売する会社が必要になり、2005年に有限会社からくり企画を立ち上げました。外国のパズル愛好家にも認知され、オンラインショップを開設。値段は決して安くありませんが、約8割が海外に売れていきます。

「若手がいると未来が明るいんです。この地域の産業を引き継ぐ価値があるものにしていきつつ、引き継ぐ人を作っていきたい」と話します。



ハート型の亀井さんの作品



こちらはアイデアコンテストに応募された作品

YouTubeで開け方を公開!

からくり箱【公式】チャンネルでは、からくり箱の開け方や、作成の秘密を解説しています。4進法の仕組みを持つからくり箱は、開くまでになんと1,536回の動作が!



画像をクリックすると別ウィンドウで開きます



左のQR、下記URLからもアクセスできます

<https://youtu.be/nPfWpAJW3b0>